

社会科における習得・活用を意図した授業のあり方

寺田康彦
社会科 石田了子
小山均

昨年12月から今年度前期にかけて、社会科では、新学習指導要領解説社会編にある、中学校社会科の改訂にあたっての基本的な方針のうち、「基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得」を意識し取り組んだ。

1. 社会科における習得・活用に関する本校生徒の実態

昨年度12月に小山教諭が2年生地理的分野「世界から見た日本のすがた 世界と日本の生活文化」において研究授業を行った。研究授業では、生徒がこの単元で学習したことを活用して、外国の人々に日本について知ってもらうための旅行プランを立案・発表するものであった。事後整理会では「流行の、もしくは現在の若者に人気の観光や買い物スポットが旅行日程に多く組み込まれ、生徒の興味のあることに偏りすぎていたのではないか。事前に地理で学んだことを旅行日程に組み込む、そして組み込んだ理由を説明するといったことが足りなかったのではないか。」という意見が出された。

この研究授業に限らず、普段の活動においても、例えば生徒がレポート作成などを行う場合、広く浅いニュースなどからの情報や知識、流行っていることをそのまま使う傾向があり、生徒が、生活を通して実感したことを内容に盛り込むことが少ない。テレビや雑誌といった情報源を鵜呑みにして、発表においても自分の言葉で発表出来ないのである。昨年12月の研究授業では、レポートの題材は日本や世界といった生徒にとっては大変広い範囲を扱った。しかし、同じような傾向は、生徒の生活空間である「身近な地域」や「石川県」についてのレポート内容にも示されるのである。なぜ、このような傾向のレポート内容、発表となってしまうのであろうか。

例えば、江戸時代の寺子屋では、現在の地理的分野の基礎的・基本的な知識、すなわち用語を覚えさせることを「村づくし、国づくし（村や国の名前や場所を覚える）」として学習した。しかし、寺子屋での地理の学習はそこまでであり、そのあとに続くはずの地図に関する教育は特にしていなかったといわれている。それは、この時代（江戸時代ばかりでなく、その後1970年代までの期間）子ども達は遊びの中で探険をし、自分たちの世界を広げていくなかで、地理的な空間認識力を身につけていったからである。地理的な空間認識力とは、平面的な地図から立体的な空間を想像し、イメージすることのできる力である。距離を認識する感覚、地形をもとに認識する方位の感覚、そのような地形となった理由を想像する力、ある地形に風がふくとどんな気候となるかを想像する力、地形と道や建物との関係性を認識する力などを指す。昔の子どもたちは、例えば自分の行ったことのある範囲を地図に表すと、成長とともに、その地図の範囲が広がっていき、範囲を広げる中で地理的な空間認識力を身に付けていったのである。しかし、現在の子どもたちのそれはどうなっているのであろうか。中学生が1人で行ったことのある範囲は、昔の中学生に比べて非常に狭いのではないだろうか。小学生だったころ、あの交差点より向こう側、その大きい道路よりも向こう側へ、遊びの中で探険したことのある中学生はどれくらいいるだろうか。本校生徒は、1人で行動したことのある範囲は狭くなっているにも関わらず、親と一緒に県外へ、海外へと旅行に出かける機会が多く、さらに地理的な空間認識力はいびつなものとなっている可能性がある。地図に表してみると、成長と比例して広がるものではなく、行った事のある場所が水玉模様のように点在する地図となるのではない

だろうか。

昔の子ども達は、身近な地域については遊びの探検を通して自分で確かめ、地理的な空間認識力の基礎を培った。その体験をもとに更に行動範囲を広げ、簡単には行くことの出来ない他の都道府県そして世界に興味関心を抱いた。このような経過をたどったので「身近な地域」「日本」「世界」は地理的につながりを持つという感覚があった。しかし現在ではテレビやインターネットからは「世界」「日本」「身近な地域」という順番に生徒に情報が流れ込み、それぞれはつながりを持たず、点として理解している傾向がある。地理的な空間認識力を遊びの探検では身に付けることができなくなったことと、最初に述べたテレビや雑誌といった情報源を鵜呑みにして発表時に自分の言葉で発表出来ないこととは深い関係があると思われる。地理的な空間認識力を生徒は自身の生活体験から得ていないので、レポート内容・発表を自分の言葉で表現することができないのである。

本校生徒の実態すなわち学力形成上の問題点を整理すると次のようになる。

- ・インターネット、テレビ、雑誌といった誰かによって調査され作られてしまった情報を鵜呑みにして、それらから得た情報について想像力を働かせることなくレポートを作成してしまっているの、自分の言葉で発表出来ない。
- ・地理的な空間認識力、すなわち平面的な地図から立体的な空間を想像し、イメージすることのできる力を、生徒が自身の生活体験から得ていないので、レポート内容・発表ともに自分の言葉で表現することができない。

2. 社会科における習得・活用を意図した授業について

これらの生徒の実態をふまえ、問題点を克服するために、社会科において教師は何を学ばせるべきであろうか。問題点をさらに端的にいうと「想像力の欠如」といえる。実生活で体験したことは自分の言葉で表現できる。実生活で体験したことのように想像力を働かせる力を習得させるにはどうすればよいか。それができれば、社会科として深まりのあるレポート内容、そして自分の言葉で発表する力がつくのではないかと考える。

例えば地理的分野において生徒が想像力を働かせる場面とは次のような場面である。砂漠についてのレポートを作成する場合、まず、世界に存在する砂漠や、世界の気候帯についてなど「基礎的・基本的な知識・概念」、そして砂漠周辺の地図を読み取る「基礎的・基本的な技能」が必要である。そのような知識・概念があってはじめて、この砂漠が人々を苦しめていることはなにか、この砂漠がなぜ広がり続けているのか、将来はどうなっていくのかについて想像できるのである。想像力を育成するには、基礎・基本の習得とその活用の学習が不可欠なのである。

それでは社会科では具体的にどんな取り組みをすればよいのであろうか。第1段階として、教師が授業において、社会的事象の基礎的・基本的な知識、概念、技能を生徒に定着・蓄積させることを意識し、生徒に基礎的・基本的な知識、概念が本当に定着・蓄積しているのか、教師がチェックする場面と方法を明確にする取り組みを行うことである。第2段階としての取り組みは、授業で習得した基礎・基本や、収集した資料・情報をもとに、レポートテーマについて想像力を働かせ、自分なりに意味づけ・関連づけをし、そして再びレポートなどに組み立てなおすという作業をとおして、社会科として深まりのある表現力を身につけるといえるものである。本校の今年度の研究主題に関わる「習得を意図している」のが第1段階であり、「活用を意図している」のが第2段階である。

第1段階で実践すべきことは、授業において教師が、社会的事象の基礎的・基本的な知識、概念や技能

を生徒に定着・蓄積させることを意識し、チェックすることである。その前に、基礎的・基本的な知識、概念、技能とは何かについて明確にしたい。地理的分野については、次のように整理することができる。

基礎的・基本的な知識：主に用語のこと。寺子屋で学んでいたこと。

具体的には、都道府県名・都道府県庁所在地名・また都道府県の地図上での場所、山・河川・海・平野名、気候名などがあげられる。

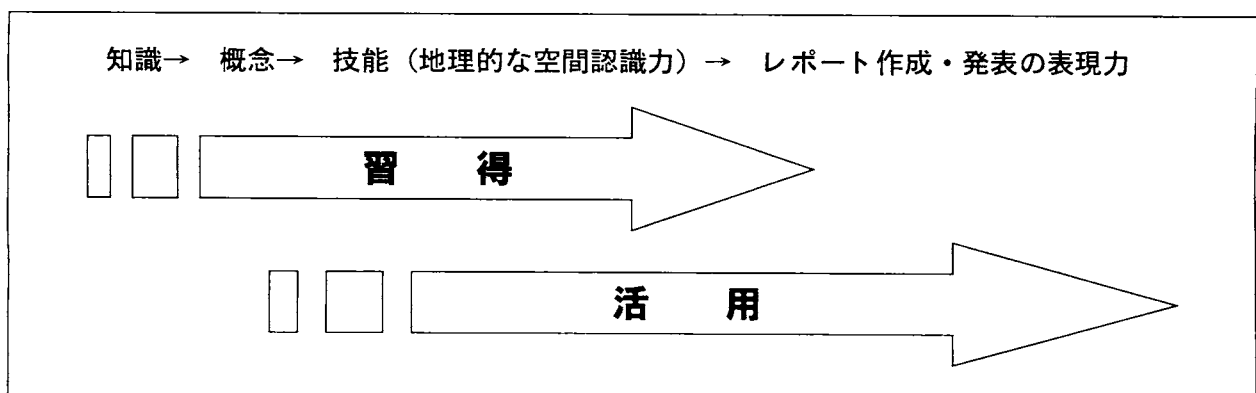
基礎的・基本的な概念：地理的な空間認識力を構成する上で必要なもの・こと。

具体的には、地図の図法、緯度・経度の認識、世界の地形・気候、日本人の世界観（地図を思い浮かべた場合、日本の位置が中心となっているもの）、交通網整備による経済効果の事例などがあげられる。

基礎的・基本的な技能：地理的な空間認識力。知識・概念を操作できる技能。身につけた知識・概念を組み合わせ、実際に応用できる技能。

具体的には、地図から読み取り、地図を使って、そして地図を作成する力や、身近な地域の道路や建物の関係を認識する力、世界の地形・気候への人々の関わり方を想像する力、交通網整備による経済効果の事例を活用して他に応用できる力などがあげられる。

これは、地理的分野について整理したものであるが、他の分野でも同じように整理できる。どの分野においても、基礎的・基本的な知識はもちろん大切であるが、社会科においては基礎的・基本的な概念や技能を習得させることが、より広く深い活用を生み出すと考える。特に、基礎的な技能を身につけさせることに関しては、第1段階の「習得」と第2段階の「活用」にまたがって行われるべきではないかと考える。そのイメージを図で表すと次のようになる。



言い換えると「活用」の最初の部分を、教師が意図的に生徒に「習得」させなければ、生徒の活用は薄弱なものになってしまうということである。

それでは第1段階で、それらを生徒に定着・蓄積させるためにはどうすればよいのか。まず、定着・蓄積させる方法についてである。基礎的・基本的知識、概念、技能を繰り返し授業においておさえることが重要である。繰り返し行う場面とは具体的には次のようなことを指す。

- ・まず、授業計画で取り上げるべき基礎的・基本的知識、概念、技能を明確にする。
- ・明確にした基礎的・基本的知識、概念、技能について、単元計画において繰り返し押さえる場面を設定し、授業する。
- ・単元(または小単元)ごとに小テストやカルタ取りなどを取り入れる。どのくらい定着しているかチェックを行う。

・単元テストで最終チェックを行う。

これらの過程では、知識である用語の定着・蓄積に偏ることなく、概念や技能の蓄積・定着を図ることに留意しなければならない。

次に、第1段階「習得」の最後、第2段階「活用」の最初にあたる場面において、つまり、第1段階と第2段階とが重なる場面において、次のことを実践する。

・単元まとめのレポート作成活動においては、明確にした基礎的・基本的知識、概念、技能を活用できるテーマを教師側で考え設定する。特に概念を活用できるようなテーマ、概念を活用することによって技能を習得できるようなテーマ設定をしなければいけない。生徒は、そのテーマに沿ったレポート作成活動を行うことによって、更に、基礎的・基本的な知識、概念、技能の定着・蓄積を図ることができると考える。

この段階までの教師のきめ細かい支援があつてはじめて、社会科で学んだことを活かし、社会科として深まりのあるレポート内容を作成する事ができるのではないだろうか。

そしてそのレポート内容をさらに濃いものとし、発表活動を充実させる力をつけるために、第2段階として実践すべきことは次のことであると考ええる。

・授業で学んだことを活用したレポートとは、自分の言葉に変換するとはどういうことかについて教師はモデルを示す。発表時は、原稿をそのまま読むのではなく、プレゼンテーションソフトやレジュメを見ながら発表するイメージを持たせるような支援を行う。

3. 社会科における習得・活用を意図した授業実践例

(1) 公民的分野の授業実践より

① 基礎的・基本的な知識を習得するための支援

単元（または小単元）ごとに、基礎的・基本的な知識が、定着・蓄積しているかチェックするために、カルタ取りを取り入れた。事前に教科書に太字で書いてある語句を中心にカルタ札をつくることを予告しておく、その準備をしてくる生徒が多く見られた。さらにこの活動は、興味・関心を引き出す活動としても効果があると考えた。男女混合の4人グループを基本とし、カルタを取る際の道具として、ハエたたきを使った。素手で行うと、女子生徒がなかなか手を出さないのではないかという配慮が1つ。道具を使うことで、楽しく活動がおこなえると思ったからである。単元ごとに行った、この活動を楽しみにする生徒も多くなり、基礎的・基本的な知識の定着をめざした支援としては、効果があつたと考える。

② 新聞を使った活用の授業

公民的な分野では、新聞を使った授業展開が欠かせない。今、身のまわりでおこっていることを知り、その問題点や、課題を取り上げる。さらに、その解決策を探していくといった単元での学習の流れの中に、何度か新聞を使ってみた。「人権を守る」という単元では、「足利事件」の冤罪報道を取り扱った。実際に冤罪被害にあった方のコメントなどを紹介することで、人権とは何かを考える機会になったと思われる。また、「アイヌ民族」の人権を考えてもらう上で、俳優の宇梶剛士さんのお母さんの話を紹介した。さらに、「国会のしくみ」という単元では、「麻生内閣への不信任決議案提出」の記事を扱った。授業で学習したことが、実際に身のまわりで報道されていることを知らせ、授業でその報道内容を分析させることで、基本的な知識の習得や場合によっては活用の場面となるのではないかと考える。

(2) 地理的分野「中部地方」「石川県」「世界の様々な地域の調査」授業実践より

中学1年生で行った「中部地方」「石川県」の授業実践例を左側に、中学2年生で行った「世界のさまざまな地域の調査」の授業実践例を右側に載せた。どちらの実践も、地形・土壌・気候・地下資源などの自然条件への人々の働きかけと交通網の整備とその影響という基礎的・基本的な概念を習得し、地形・土壌・気候・地下資源などの自然条件への人々の働きかけと交通網の整備とその影響について、さまざまな地域に応用できる基礎的・基本的な技能を習得することを目的に行った。「中部地方」「石川県」と、「世界の様々な地域の調査」という、レポート作成発表までの同じ過程をたどる2回の実践を繰り返し行うことによって、より確かな基礎的・基本的な概念と技能の習得をはかった。なお、枠の中の番号は行った順番を示す。

「中部地方」「石川県」の授業実践	「世界のさまざまな地域の調査」授業実践
------------------	---------------------

① 基礎的・基本的な概念を習得するための支援

☆印は基礎的・基本的な概念を習得できているかについてのチェック

<p>1. 中部地方の地形、気候、主な都市について地図で確認させながら理解させる。</p> <p>2. 地図帳 p.119～124から中部地方各地のさかんな産業について読み取りをさせ、理解させる。</p> <p>3. 工業・野菜・畜産物・果実・米の生産がさかんな中部地方各地について、さかんな理由を地図に記入させながら、理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県・静岡県で輸送機械の生産が多いのはなぜでしょうか？ ・愛知県・長野県で野菜生産が、愛知県で畜産物の生産が多いのはなぜでしょうか？ ・長野県・山梨県で果実生産量とIC生産量が多いのはなぜでしょうか？ ・北陸地方で、稲作がさかんな理由は？ <p>4. 北陸新幹線について、どこを開通する計画なのか地図上に描きこみさせ、理解させる。</p> <p>5. 中部地方で新たな試みを実施している都市、地域を地図に記入しながら、理解する。</p> <p>6. 主題図の描き方についてつかませ、実際に描かせる。</p> <p>7. 中部地方レポート作成（資料1）</p> <p>☆このレポートは、地形・土壌・気候などの自然条件への人々の働きかけと交通網の整備という概念を習得できているかチェックするためのレポートである。</p>	<p>2. 世界各地の人々の生活と環境について、地形・気候・食文化・衣服・住居・宗教から理解させる。地図で確認し、ビデオなどを見せながら理解させる。</p> <p>3. 小テスト</p> <p>☆地形・気候などの自然条件への人々の働きかけやそれから影響を受けて生活しているという概念を習得できているかチェックする。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界各地の住居、衣服、食文化は、何の影響を受けていますか？ ・世界各地の住居、衣服、食文化は、現在では、どのようになってきていますか？ <p>4. 世界の諸地域について、地図で確認し、地図に描き込ませながら理解させる。</p> <p>(1) ヨーロッパ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな特色をもつ都市（政治都市・経済都市・工業都市など） ・交通網（河川・港・鉄道・空港） ・労働者や観光客の移動 ・EU ・環境問題への取り組み <p>(2) アジア（中国）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国の資源 ・都市部への人口移動（経済特区・郷鎮企業・環境問題）
--	--

<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中部地方のどこで、どのような産業がさかんであるか、白地図にわかりやすく記入させる。 ・ある地域で、ある産業がさかんとするには、どんな条件が必要か、説明させる。 <p>9. 石川県の地形、気候、農業、水産業、工業、交通網、人口（過密・過疎）、文化について地図・資料で確認させながら理解させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農業（内陸部の農業・近郊農業・課題と工夫） <p>(3) アフリカ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフリカの南南問題 ・アフリカの生活水準を上げるために必要なことは？（インフラの整備）
--	--

② 基礎的・基本的な技能を習得するための支援

<p>10. ①の9で石川県についての知識を理解させながら、レポートのテーマ例を示す。(資料2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば石川県の工業・交通網についての知識を得た後には「北陸新幹線が計画・建設されているのはなぜでしょうか?」「能登空港は本当に必要か?」というテーマ例を示す。交通網の整備とその影響について、さまざまな地域に応用できる技能を習得できるようなテーマ例を提示する。 ・テーマ例を疑問形とし、テーマに対する答えとその答えを導いた理由をレポートに書かせる。答えを導いた理由の中には、①②で習得したことを入れることを伝える。 	<p>5. ①で世界の様々な地域の知識を理解させながら、レポートのテーマ例と資料を提示する。(資料7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「石川県を多面的に調べよう」レポート作成で、地形・土壌・気候・地下資源などの自然条件への人々の働きかけと、交通網の整備とその影響について、さまざまな地域に応用できる技能を身に付けることのできなかった生徒のために、テーマ例とそれを解決できるような資料をセットで提示する。 ・自ら決定したテーマに沿った資料収集は生徒にとって大切な活動であるが、生徒の地理的な空間認識力を育てるための資料を教師が準備することが重要である。
---	--

③ 習得したことを活用するための支援（レポート作成・発表活動を充実させるための支援）

<p>8. 「石川県を多面的に調べよう」レポートについて説明する。(資料3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中部地方・石川県の学習のまとめとしてレポート作成をすることを伝え、生徒に学習の見通しを持たせる。 ・授業で学んだことを活用したレポートとはどういうものかモデルを示す。 ・資料などの文章を自分の言葉に変換するとはどういうことなのかモデルを示す。 <p>生徒のレポート作品・発表原稿。(資料4)</p>	<p>1. 「世界の様々な地域の調査」レポート作成について説明する。(資料5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界のさまざまな地域の学習のまとめとしてレポート作成をすることを伝え、生徒に学習の見通しを持たせる。 ・授業で学習したこと（概念）を「石川県を多面的に調べよう」レポートで活用する方法が理解できなかった生徒のために、「石川県を多面的に調べよう」レポートで学習したことを上手く活用している生徒の作品例や、地図をながめ、地図にある地形や道路、都市の場所から上手くテーマの答えを導き出している生徒の作品例を提示する。(資料6)
---	---

4. 成果や今後の課題

地理的分野を中心に、基礎的・基本的な知識・概念・技能とは何かについて整理し、その習得・活用を意図した授業実践を行ってきた。次のことが成果としてあげられる。

- ・基礎的・基本的な知識・概念・技能を区別して習得させることによって、深まりのある活用につながった。
- ・教師が時間や手間をかけて生徒に提示する資料を収集し、レポートのテーマ例を考え、モデルを示すことをレポート作成の度に繰り返し行うことによって、基礎的・基本的な技能を身に付ける生徒が少しずつ増えていった。
- ・地理的分野においては、地理的な空間認識力（基礎的・基本的な技能）を身に付けることによって、生徒が高校生、大学生、社会人と成長し、学び進んで行く中で、教えた教師も知り得ないところまで到達することも期待できる。例えば、交通網を整備する場合、建設費と経済効果を厳密に計算し、比較することはできない。整備された周辺地域への影響などについて、ある程度生徒は理解できるが限られたものである。しかし、それは生徒の今後の学習の問題提起、発展学習へとつながることが期待される。

課題としては、次のことがあげられる。

- ・地理的分野、歴史的分野、公民的分野において、それぞれの単元で基礎的・基本的な知識・概念・技能は何か、年間指導計画に整理する必要があること。
- ・地理的な空間認識力を身に付けるということ、すなわち授業で学習した基礎的・基本的な知識・概念を操作できる技能、身につけた知識・概念を組み合わせ実際にレポートなどに応用できる技能を身に付けるということは、多くの生徒にとっては難しく、さらにきめ細かい支援が必要であると痛感した。反対に、きめ細かい支援の後には、テーマ設定から、そのテーマにあった資料探索と収集、資料と地図に書いてあることまでをじっくり考えさせる、じっくり考える時間を作ることも卒業に向けて必要である。
- ・生徒の思考の中で、身近な地域→都道府県→世界の国々とならげていくことは難しい。授業の中で、つなげるためのしかけを教師は考え、支援しなければならない。

中部地方でさかんな、さまざまな産業について、レポートにまとめよう！

1. どこで、どのような産業がさかんであるか、下の白地図にわかりやすく記入してみよう。
 - 地図帳 p. 91, 92, 93, 94, 96, 119, 120, 123, 124.



2. 次のQの中から1つ選び、学習したことをもとにして、わかりやすい文章で説明しなさい。
 Q1 「愛知県・静岡県で輸送機械の生産が多いのは、なぜでしょうか？」
 Q2 「愛知県・長野県で野菜の生産が、愛知県で畜産物の生産が多いのは、なぜでしょうか？」
 Q3 「長野県・山梨県で果実生産量とIC生産量が多いのは、なぜでしょうか？」
 Q4 「北陸地方で稲作と伝統工業産業がさかんであるのは、なぜでしょうか？」

() について。

3. ある地域で、ある産業がさかんとなるには、どんな条件が必要でしょうか？

「石川県調べ学習」テーマ例 <資料2>

- テーマ例1：石川県の農業・水産業に未来はないのか？
 テーマ例2：石川県民が東海北陸自動車道を利用しやすくするため、どんな計画があるだろうか？
 テーマ例3：北陸新幹線がつくられているのは、なぜでしょうか？
 テーマ例4：石川県が日本各地と結びつくために、必要なものは何でしょうか？
 テーマ例5：石川県が世界各地と結びつくために、必要なものは何でしょうか？
 テーマ例6：能登空港がつくられたのは、なぜでしょうか？
 テーマ例7：能登地方の人口は、減少し続けるのでしょうか？
 テーマ例8：なぜ、〇〇市（町）では、人口が増加しているのでしょうか？
 テーマ例9：人口増加しているところでは、どのような問題が

<資料1>

「世界の様々な地域の調査」テーマ例 <資料7>

- テーマ例1：ヨーロッパの高速鉄道にはどんな種類があるか？ → 少し資料あります。
 いつ頃から運行開始しているか？なぜ、この頃からののだろうか？ → 少し資料あります。
 どんな都市を結んでいるか？
 何を運んでいるのか？
 高速鉄道の長所・短所は？
 計画中・建設中の高速鉄道は？どんな効果が期待されているか？ → 少し資料あります。
 アイアンライン線（アントウェルペンとドイツ国境をつなく、使用されていない鉄道ルート）再開が検討されているのはなぜか？ → 少し資料あります。
- テーマ例2：水上輸送のさかんな川は？
 ライン川はどんな港と都市を結んでいるか？
 何を運んでいるのか？
 水上輸送の長所・短所は？ → 少し資料あります。
- テーマ例3：最近の、輸送手段の転換（モーダルシフト）の内容は？（ドイツ編、オランダ編、ベルギー・ルクセンブルク編、イギリス編、フランス編、スペイン編、イタリア編） → 少し資料あります。
- テーマ例4：ヨーロッパ・アジア（中国）・アフリカの（ハブ）空港の中で、一番すすんでいるのはどこか？
- テーマ例5：ヨーロッパの高速道路の現状は？ → 少し資料があります。
- テーマ例6：ルール工業地帯が発達したのは、なぜか？ → 資料集に資料があります。
- テーマ例7：EU圏内の人々の自由な移動は、どんな長所と短所があるか？ → 資料集に少し資料があります。
 働き方について → 具体的にどんな移動があるのか、少し資料があります。
 国を越えたサッカー選手の移籍には、どんな例があるか？そのメリットとデメリットは？
- テーマ例8：ヨーロッパの観光に関する人々の移動はどうなっているのか？
- テーマ例9：なぜ、ヨーロッパでは路面電車が多いのか？ → 少し資料あります。
 フライブルクの資料も少しあります。
- テーマ例10：ロンドンの大規模通行料制度とは？
- テーマ例11：中国の沿岸部、内陸部、最近の状況は？ → 日本経済新聞に載ってました。
- テーマ例12：中国（中国国内、中国～東南アジア、中国～ヨーロッパ）の計画建設中の交通網にはどんなものがあるか？どんな効果が期待されているか？ → 少し資料あります。
- テーマ例13：中国の農業に未来はあるのか？ → 少し資料あります。
- テーマ例14：アフリカで計画・建設中の交通網は？ → 少し資料あります。
 どこにある？
 どんな効果が期待されているか？
- テーマ例15：ヨーロッパ・アジア・アフリカの、〇〇に関することは、将来どのようになっていくと予想されるか？

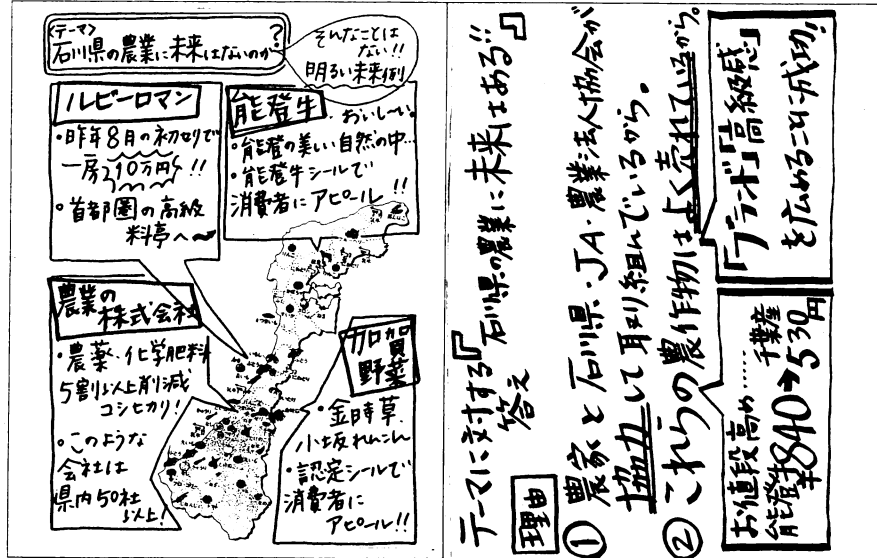
石川県を多面的に調べよう <資料3>

【手順】

- 1, 石川県についての資料から、いろいろなことを読み取る。 → Q1 ~ Q10
- 2, 読み取ったことから、調べるテーマを考える。以下に示す テーマ例1~9 から選んでもよい。
- 3, テーマに沿って、自分で資料を集める。
- 4, 「画用紙」2枚、「発表原稿用紙」A4サイズ、1枚にまとめる。
すべて手書き。
自分が撮った写真のみ貼ってよい。
【画用紙 1枚目】には、テーマに関する石川県の主題図を描くこと。
少し、遠くから見てもわかるように字は大きめに書きましょう。

【画用紙 1枚目】

【画用紙 2枚目】



☆たてがき、よこがき どちらでもよい。
☆この2枚を見せながら発表する。

【発表原稿用紙】 画用紙2枚について説明できるように「美しく、わかりやすい文章」で作成する。

・私は「石川県の農業に未来はないのか?」というテーマで調べました。

（画用紙1について）

- ・昨年、中国産ギョウザ問題があり、日本でも食料自給率をあげようという動きがあります。この状況の中、「石川県の農業に未来はない。」というのは困ります。そこで、石川県の農業、明るい未来の見える例について調べました。
- ・明るい未来が見える例として「能登牛」「加賀野菜」「ルビーロマン」「農業の株式会社」について調べました。
- ・まず能登牛についてです。大正時代に兵庫県から3頭をかい、能登の美しい自然で丹精こめて育てられたのが能登牛の元祖といわれています。肉質のきめが細かくとてもおいしいです。能登牛シールで消費者にアピールしています。
(能登牛銘柄化推進協議会HPより作成)
- ・2番目に加賀野菜についてです。みなさんも食べたことのある、金時草・小坂れんこん・五郎島金時などのことです。認定シールや加賀野菜の販売を示すのれんを掲げて消費者にアピールしています。

(資料集より作成)

- ・3番目は、ルビーロマンについてです。みなさん「ルビーロマン」とは何か知っていますか?
①宝石の名前 ②小説の題名 ③ぶどうのなまえ

これは、石川県農業総合研究センターというところが、11年の歳月を費やして完成した県内最高峰のぶどうの新品種です。味・色・房・粒の大きさ・品質・栽培のしやすさなどを追求した品種です。昨年8月の初競りでは、一房なんと「10万円」という高値をつけました。これは、首都圏の高級料亭で出されたそうです。
(JAグループ石川HPより作成) ← どこからとってきた資料かを書く。

・最後に農業の株式会社についてです。野々市町に「(株)ぶった農産」という農作物を扱う会社があります。例えば、米作りから、加工、販売までを行います。北海道の花畑牧場のように、いわゆる第6次産業的な会社です。このような会社の売りは農薬・化学肥料などを極力抑えた、消費者にとって安心な「有機栽培」です。このような会社は石川県内に50社以上あるといわれています。(石川県農業法人協会HPより作成)

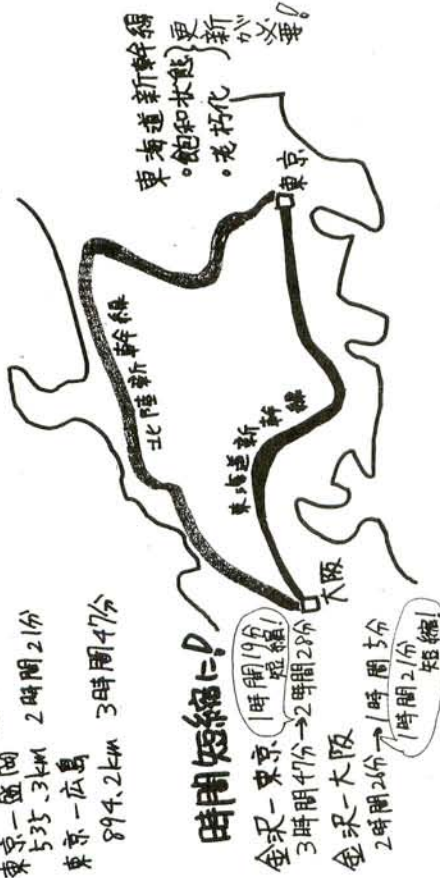
（画用紙2について）

- ・私のテーマに対する答えは、「石川県の農業には問題点もあるが、未来もあるということです。」
- ・「未来がある」といえる理由を2つ、説明します。 ← ← 調査したことを考察・分析する。
- ・1つ目は、農家ばかりが頑張るのではなく、石川県が、ぶどう農家の願いをくんで品種改良に取り組んだり、JA・石川県農業法人協会というところが農家と連携して、より良い農作物をつくる努力をしているからです。
- ・2つ目は4つの生産者に共通していることですが、これらの農作物はよく売れているから未来はあると思います。なぜ売れるのか、それは消費者にとって安全か、おいしいかということを追っているからです。これらの生産者は、消費者のことを考えているがゆえに、商品のお値段は少々高めとなっています。例えば、千菓県産牛肩ロース100gあたり530円に対し、能登牛肩ロース100gあたり840円となっています。茨城県産レンコン100gあたり88円、小坂レンコン100gあたり98円、マイハート石川県産コシヒカリ一粒のきらめき10kgあたり3,780円、ぶった農産コシヒカリ10kgあたり7,140円となっていて、紹介した生産者による農作物は他の商品に比べて割高となっています。しかし、値段が高くても消費者が手に入れたくなるような「ブランド」というか「高級感」を、シールやCMで作りだしています。この効果もあり、実際よく売れています。
- ・以上で、発表をおわります。

〈テーマ〉北陸新幹線はなぜ必要なのかな？

金沢が遠い
東京-金沢 460.6km 3時間47分
東京-盛岡 535.3km 2時間21分
東京-広島 894.2km 3時間47分

CO₂排出量①車の7分の1以下
安全性が高い！



〈テーマ〉に対する答え

- ① 大都市から遠く、不便な地方にならないため。
- ⇒ 所要時間が短縮される！
- ② エネルギー消費量・CO₂排出量が少なく、地球に優しいから。
- ③ 東海道新幹線のハイパス機能を果たすため。
- ④ 新幹線が整備されない、特性を生かした交通機関として機能しないから。

例えば...

航空機	750km以上の長距離の2点間を結び手配として。
鉄道	300~750kmの中距離都市間を大量に輸送する手配として。
自動車	300km以下1点ごの短距離の交通手段として。

「北陸新幹線はなぜ必要なの？」というテーマで調べた。最近、北陸新幹線建設の動きがよからず授業でも学習した。石川県でも新幹線が重要だとされているから、三月八月に、主要な新幹線の有無と、時間距離を、地図上で、石川県は、ほぼ中央に位置している。しかし、新幹線がないため、他の大都市に遠く離れたところ、東京と石川県との距離が、金沢から、石川県へ行くのに、時間以上かかる。同じ時間で、距離が、石川県へ行くよりも、石川県の理系で、石川県の東部へ行くには、現在、4時間以上かかる。北陸新幹線が開通すると、約2時間で行くことができる。航空機と比較して、CO₂排出量、エネルギー消費量が、1人以上、1km運ぶのに排出するCO₂の量が、10倍以上、新幹線は、1倍以上、航空機なら、5倍、乗客のバスに、排出している。また、新幹線は、昭和39年の開業以来、極めて高い安全性を示しており、信頼性の面でも、優れた高速交通手段となっている。

最後に、東海道新幹線の役割について。東海道新幹線は、東北、北陸、東海、西日本、九州にあり、開業から40年以上、日本の交通の要衝として、重要な役割を果たしている。また、東海道新幹線は、日本の交通の要衝として、重要な役割を果たしている。また、東海道新幹線は、日本の交通の要衝として、重要な役割を果たしている。

私のテーマに対する答えは、① 不便な地方にならないため ② 地球に優しいから ③ 東海道新幹線のハイパス機能を果たすため ④ 特性を生かした交通機関として機能しないから。他の大都市へのアクセスは、不便なところから、新幹線が開通すれば、アクセスがよくなる。また、石川県の東部へ行くには、現在、4時間以上かかる。北陸新幹線が開通すると、約2時間で行くことができる。航空機と比較して、CO₂排出量、エネルギー消費量が、1人以上、1km運ぶのに排出するCO₂の量が、10倍以上、新幹線は、1倍以上、航空機なら、5倍、乗客のバスに、排出している。また、新幹線は、昭和39年の開業以来、極めて高い安全性を示しており、信頼性の面でも、優れた高速交通手段となっている。

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

<資料5>

「世界の様々な地域の調査」計画

☆次のような順番で授業を進めます。

1. 世界各地の人々の生活と環境【4時間】

- (1) 世界の地形・気候
- (2) 世界の食文化・衣服・住居
- (3) 世界の宗教

2. 世界の諸地域

(1) ヨーロッパ【4時間】

- ・ さまざまな特色をもつ都市（政治都市・経済都市・工業都市など）
- ・ 交通網（河川・港・鉄道・空港）
- ・ 労働者や観光客の移動
- ・ EU
- ・ 環境問題への取り組み

(2) アジア（中国）【4時間】

- ・ 中国の資源
- ・ 人口の多い都市部（経済特区・郷鎮企業・環境問題）
- ・ 農業（内陸部の農業・近郊農業・課題と工夫）

(3) アフリカ【1時間】

- ・ アフリカの貿易の特色（フェアトレード）
- ・ アフリカの生活水準を上げるために必要なことは？

3. 「世界の様々な地域」の調査

- ・ 1と2、そして「中部地方」「石川県」「歴史」で学んだことをもとに、テーマを設定する。（テーマ例を授業で出していきます）
- ・ テーマは例えば
「中国～東南アジアにかけて建設中の道路（鉄道）について。完成したときの利点は？」
のように、疑問形のものでお願いします。

↓

↓ 家でテーマのための新聞・資料・情報収集（学校では歴史の授業します。）

↓

- ・ 「画用紙」2枚、「発表原稿用紙」A4サイズ1枚にまとめる。【夏休み前3時間】
すべて手書き。自分が撮った写真のみ貼ってよい。たてがき、よこがき、どちらでもよい。
- ・ 画用紙1枚目には、次のことをかいて下さい。
テーマ（疑問形のもの）
テーマに関する主題図を描くこと。
テーマを解決するために必要なこと。

- ・ 画用紙2枚目には、テーマに対する答えと、どうしてそのような答えを出したのかについて書いてください。

<資料6>

〔石川県調べ学習 上手に取り組んでいた人達の例〕

○中部地方で学んだことを使っている。グリーンツーリズム 1組 H

○中部地方で学んだことを使っている。長野の抑制栽培と能登の魚の出荷時期。 2組 Y

○資料を豊富に収集している。新聞記事から・国土交通省から
発表後 H21,3,25 朝刊で新事実が出る。 1組 S

○同じテーマでも、答え、解釈が違う。

資料をただうつすのではなく、自分なりにかみくだいて、再構築してまとめている。

1組 M（空港賛成派） 対 1組 H（新幹線賛成派）

2組 W（空港反対派） 対 4組 T（空港賛成派・拠点として）

資料の読み込みが深い。自分の意見・考察を、資料を根拠に述べている。

4組 Y・・・地産地消は良いが、県外にアピールできない。

○自分のことばで言い換えている。

2組 K・・・責任感が生まれ 2組 T・・・ふるさと心

2組 Y・・・バランスをとる 3組 O・・・憧れが

○将来について考えるとき、現実在即して考えられる。

3組 I・・・金沢能登連絡道路建設中（能登有料道路と金沢港周辺を結ぶ）

例えば現在の不景気と将来の能登の農村へ帰る人が増えるのではないかと・・・

2組 M 3組 T

自分の体験から予想する。山側環状・・・3組 O

○日本地図全体から、石川県の位置を眺めている・・・2組 T

石川県の中に加賀地方の位置を眺めている・・・2組 K

○提案につながる

1組 M・・・地方同士の対立ではなく、協力を！

→ 北国新聞 H21,3,24 朝刊（M君発表は3/17）にて、同意見を金沢学院大学教授根本博氏が書いている。

- ・ 少し遠くから見てもわかるように、字は大きめに書きましょう。
- ・ この2枚を見せながら、発表原稿用紙を見ないで発表します。（発表は11月の予定）